

「下川・建築物環境目標水準」の作成に関する事業

環境に配慮した住まいづくりの目標水準を示す

循環型森林経営を実践してきた北海道・下川町で活動している下川みどりの家づくり協議会は、森林を背景とした下川の木造住宅の目指すべき水準を示す「下川・建築物環境目標水準」を作成、地域の住宅市場の活性化を図ろうとしている。

森林資源の循環利用と環境に配慮した住宅の建設を推進

北海道上川郡下川町では、60年をサイクルとした循環型森林経営（毎年植林50ha×60年伐期）を基盤として、森林バイオマスを総合的に活用する取り組みを実践してきた。そのなかで、北海道で初となるFSC森林認証の取得や、地域材を使用した住宅建設の推進、木質バイオマスボイラーの導入、さらには森林療法（森林セラピー）の事業化など環境に配慮した取り組みを行っており、国の「環境モデル都市」の認定を受け、全国のモデルとなる地域づくりを進めている。

特にエネルギー消費の多い積雪寒冷地では、環境負荷を低減した住宅づくりが求められている。そこで、森林資源の循環利用を推進、環境に配慮した良質な住宅の普及を通して地域住宅産業の振興と地域



下川町の考える地域にふさわしい住まい「下川町エコハウス」の見学会

の活性化を図る目的で、平成20年に下川みどりの家づくり協議会が設立された。下川町建設業協会や下川町森林組合、財団法人下川町ふるさと開発振興公社などで構成されている。

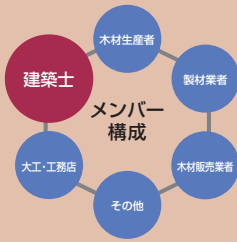
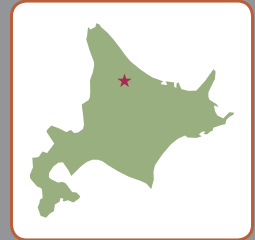
主な活動

下川みどりの家づくり協議会では、これまでも森林資源の有効利用に関する調査研究や、住宅環境性能評価基準や指標に関する調査研究、下川型モデル住宅の開発と普及に関する調査研究などを行ってきた。

さらに「地域木造住宅市場活性化推進事業」を活用し、下川にふさわしい住まいづくりの推進と技術の向上、地域の住宅産業のレベルアップによる住宅市場の活性化を目指して「下川・建築物環境目標水



「下川・建築物環境目標水準」ガイドブックとパンフレット



●下川みどりの家づくり協議会

結成：平成20年

メンバー構成：木材生産者、製材業者、木材販売業者、大工・工務店、建築士、その他（公益法人）

メンバー数：16

連絡先：TEL・01655-5-2770

●中心メンバー ●構成メンバー



「下川町エコハウス」の設計者選定の様子

「準」を作成している。従来の建築的な性能基準に森林側の考え方を加え、環境に配慮した地域にふさわしい住まいづくりの目標水準を示している。森林の町、下川だからこそできる山村地域の優位性を最大限に活かすための取り組みだ。

同協議会では、この「下川・建築物環境目標水準」を建設業者や設計者などに配布しPRしている。ガイドブックの他に普及のためのツールとして、パンフレットも作成した。セミナーや見学会、勉強会を



「下川町エコハウス」では、セミナーも実施している。

通じて、消費者や建設業者に配布している。

さらに、普及をより確実なものにするため、「下川・建築物環境目標水準」を用いたモデル住宅の設計も行っている。実際に目に見える形で示すことで、より効果的な普及を図っていく。

下川において先導的な取り組みを行い、成功事例となることによって地域内の意識の醸成を図り、地域の住宅産業の活性化を目指している。

活動のポイント

●——地域材活用の手引書「下川・地域材活用マニュアル」を作成する

同協議会では、目的に向かい活動を着実に進めており、地域の関心も高く、問い合わせも多いという。ただし、協議会の活動が初期段階であるため、活動資金の確保や他の関係団体との連携、活動の地域全体への波及効果などの面でまだ課題があるという。そのためにも、さらなる認知度向上に向けた取り組みを進めていきたい考えだ。

建設業者の団体である下川町建設業協会と森林所有者の組合である下川町森林組合、地域の産業振興を担う下川町ふるさと開発振興公社という町内の各分野で中心的な役割を担う組織が連携することで、木造住宅市場の活性化が効果的に進められる。また、他の団体や行政、公的研究機関などの協力を得たり、

連携が容易であるのもグループで活動を行う利点だという。活動資金を確保する面でもグループや団体である方が有利に働く。

同協議会では、今後も、地域における木造住宅市場の活性化を図る取り組みをさらに進めていく方針だ。そこで、地域材の特性や具体的な活用方法を建設業者や消費者などに対しわかりやすく示すため、地域材を活用する手引書として「下川・地域材活用マニュアル」を作成する。地域材を活用した住宅の建築に結び付けたい考えだ。さらに、「下川・建築物環境目標水準」に基づいた一般住宅や公共施設の建設や、同水準に基づいた下川町の住宅支援制度の実現も目指していく。

地域大工集団による釧路木造住宅改修プログラム及び実施体制整備事業

地域の木造ストックの良質化を図る

北海道

100年の歴史を持つ大工の組合が「職能集団の機能の再生強化」に取り組んでいる。地域の木造住宅ストックの良質化や、地域密着の組織を活かすメンテナンス体制の整備などを進めている。

100年の歴史を持つ大工組合が新たな展開

釧路聖徳太子講建築職グループは、世帯規模と住宅規模のミスマッチ、耐震化の遅れ、老朽化など地域木造住宅の課題解消のため、既存ストック改修を中心に、地域の大工集団の新たな取り組みプログラムの作成と体制づくりを行った。

その背景には、世帯規模と住宅規模のミスマッチの解消や、ストックの良質化、夏季冷涼で冬季は積雪が少なく日照の多いという気候に合わせた「北方型十太陽熱利用」の可能性、地域木材資源の活用必要性、地震が多い地域にもかかわらず耐震化が遅れているため耐震改修が求められていることなどがある。

その一方で、聖徳太子講は創立100年を越える大工の組合であるが、新たな展開を明確に打ち出す必要があった。そこで木材、資材、設計などとの連携を図り対応力を拡充、新築工事の減少のなかで改修工事へのシフトを図ろうとしていた。



主な活動

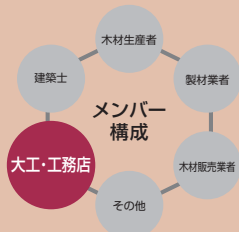
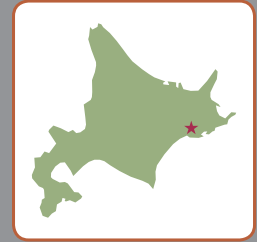
「地域木造住宅市場活性化推進事業」として実施した「地域大工集団による釧路木造住宅改修プログラム及び実施体制整備事業」は、①地域木造住宅ストックの良質化を図るため、同ストックの実態、地域特性、地域ニーズを踏まえた改修推進のためのアクションプログラムを作成、②地域木造住宅の長寿命化を推進するための地域密着型の組織を活かした住宅メンテナンス体制の整備——である。

地域木造住宅の現状と消費者ニーズ、また、地材地消の消費者動向とカラマ



「地域工務店によるこれからの住まいづくり」講習会の様子





●中心メンバー ●構成メンバー

●釧路聖徳太子講建築職グループ

結成：平成20年
 メンバー構成：大工・工務店
 メンバー数：100
 連絡先：TEL・0154-42-5340



ツなど地域木材の特性・供給力の把握を行うとともに、会員の意識を整理、明確化し、技能士育成のための高等技術専門校の新たな役割を探った。

これらを踏まえ、「職能集団の機能の再生強化に向けたアクションプログラム」として、釧路地域に適合する改修技術手法（ハード）の開発、改修実践手法（ソフト）の開発、需要の拡大、担い手の育成、地域木材産業との連携の5つの視点から、今後の展開の方向と3カ年での取り組み手順などを整理した。

またこの事業の一環として様々な講習会及び研修会も実施した。



ちきゅう住宅検査員講習会の様子

活動のポイント

●——“技能の神様”聖徳太子を奉る組合が幅広い改修需要に応える

釧路聖徳太子講建築職グループは、平成20年に地域特性を踏まえた建築技術の向上、建築技能者の育成、地域木材の活用を通じ、良質な地域住宅づくりの推進に寄与することを目的に設立された。

釧路聖徳太子講は、釧路大工組合を中心に明治40年に創立、建築技術を中国より輸入した聖徳太子を「技能の神様」としてお奉りする。現在は建築を始め10業種を網羅。このうち大工職や工務店を中心に新たに設立したのが建築職グループである。

住宅の長寿命化が謳われるなか、家づくりのプロが住まいを正しく点検・診断し、住まいにあった情報提供やアドバイスをしていくことが消費者の暮らしを守ることにつながる。しかし、釧路には老朽化

した住宅が多く、住宅を建てた後のアフターフォローにも不満の声が聞かれる。そこで100年の歴史を持つ地域の職能者団体を改修の担い手として位置づけ、幅広い改修需要に応える体制を短期間で整えるためにグループを設立した。その取組の一環として人材育成に力を入れ、例えば、ちきゅう住宅検査員の講習会なども行っている。

グループで活動することにより、消費者に対して団体が窓口になるという安心感、施工者とのミスマッチの防止、施工事例などの情報提供サービスの充実化が図れるという。さらに、参加事業者が横並びに評価されることで互いの技術研鑽の場にもなり、会員全体のレベルアップにも期待している。